

1. ところが、ある人はこう言うでしょう。「死者は、どのようにしてよみがえるのか。どのようなからだで来るのか。」愚かな人だ。あなたの蒔く物は、死ななければ、生かされません。あなたが蒔く物は、後にできるからだではなく、麦やそのほかの穀物の種粒です。(15:35-37)
 - a. 復活するとはどういうことだか考えたことがあるだろうか？ キリスト教はイエス・キリストが死者の中からよみがえり、さらにそのイエスを信じる者もいつの日かよみがえる、という信仰に基づいている。
 - b. では死者の中からの復活とはどういう意味だろうか？ ここでパウロが言っているのは、文字通りの死者の復活というのではなく、それは今あるいのちのみに起こるものだとする間違っただけの考えのことである。その間違っただけの教えとは、イエスが私たちの罪のため死んでくださったことにより私たちは霊的によみがえり、実際の死を迎えるまでこの地上で良い人生を歩む、という考えであった。
 - c. もちろんこの世のいのちにおいて比喩的な死は経験しなければならないが、それはイエスに従った者を待つ復活への望みに取って代わるものではない。私たちの罪のためのイエスの死はコインの片側のようなもので、もう一つが復活である。したがって死ぬからだは種にすぎない。

2. しかし神は、みこころに従って、それにかからだを与え、おのおのの種にそれぞれのからだをお与えになります。すべての肉が同じではなく、人間の肉もあり、獣の肉もあり、鳥の肉もあり、魚の肉もあります。また、天上のからだもあり、地上のからだもあり、天上のからだの栄光と地上のからだの栄光とは異なっており、太陽の栄光もあり、月の栄光もあり、星の栄光もあります。個々の星によって栄光が違います。(15:38-41)
 - a. ここで言う「種」とは私たちのいのちのことである。私たちが実際に死んで土に埋められるまで、新しい(復活した)いのちは目を出さない。
 - b. 地上には様々な種類の生命があるように、死ぬ人間も新しいからだを持つそれぞれユニークな種である。イエスが死なれ新しいからだをもってよみがえられたのと同様である。
 - c. すべての復活には違いがある。天の太陽、月、星にそれぞれ違う栄光があるように、復活にも違う栄光がある。太陽、月、星が違う輝き方をするように、聖徒たちも復活するとそれぞれ違う輝き方をする。

3. 死者の復活もこれと同じです。朽ちるもので蒔かれ、朽ちないものによみがえらされ、。(15:42)
 - a. 良い知らせは、私たちがイエスとともに葬られると、神は永遠の御国の門を開いてくださるということである。私たちがイエスに信仰をおくと、朽ちるもので蒔かれた朽ちないものによみがえらされる。
 - b. キリストとともに霊的に死んだ者はすべて、肉体的死の後いつの日かイエスご自身が体験された栄光のよみがえりにあずかる。イエスの死と復活が、彼に従う者すべての道を整えたのである。
 - c. 私たちがこれから体験するであろう復活は、私たちがどこにいのちを埋めるかそして今をどのように生きるかに関係がある。立派に生きた人たちは栄光の復活を体験し、それぞれに異なる栄光がある。「卑しいもので蒔かれ、栄光あるものによみがえらされ、弱いもので蒔かれ、強いものによみがえらされ、血肉のからだで蒔かれ、御霊に属するからだによみがえらされるのです。血肉のからだがあるのですから、御霊のからだもあるのです。(43-44 節)」